

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-134	15-014	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
An applied test of the social learning theory of deviance to college alcohol use. 大学生の飲酒行動に対する逸脱の社会的学習理論の適用試験		
<b>執筆者</b>		
DeMartino CH, Rice RE, Saltz R.		
<b>掲載誌</b>		
J Health Commun. 2015 Apr;20(4):479-90. doi: 10.1080/10810730.2014.988384.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
社会的学習理論、分化的接触、分化強化、飲酒行動		25630048
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 逸脱の社会学的理論 (SLTD) はヒトの行動に対する社会的影響 (分化的接触) と心理的影響 (分化強化) を重視した概念である。本研究では大学生の飲酒行動に対する SLTD の各項目の適用性を明らかにする。</p> <p><b>方法：</b> 対象者は大学生 347 名 (男 42.4%)。生物学的特性 (性、年齢、学年、民族)、分化的接触 (社会的基準、居住地、模倣源)、分化強化 (肯定性、社会的圧力、否定性、負の経験)、飲酒行動 (一般的な飲酒行動、違法飲酒、多量飲酒) に関し質問票を実施した。社会的基準は飲酒頻度、飲酒量、他者の飲酒状況を統合させた指標で、点数が高いほど飲酒量や飲酒頻度が高いことを示す。模倣源は周囲の非酩酊者数から酩酊者数を、純分化強化は肯定性と社会的圧力の点数から否定性と負の経験の点数を差し引いた値で示した。</p> <p><b>結果：</b> 女性は肯定性が飲酒行動に与える影響に正に作用した。ヨーロッパ民族はアジアやラテン民族に比べ、否定性や負の経験が飲酒行動に与える影響に負に作用した。純分化強化は、社会的基準および居住地が飲酒行動に与える影響に正に作用したが、模倣源との関連はなかった。女性は純分化強化と一般的な飲酒行動、違法飲酒、多量飲酒と正に関連した。階層的重回帰分析では、分化的接触は多量飲酒に対し正に作用し、社会的基準および純分化強化は違法飲酒に対し正に作用した。女性および低学年者に違法飲酒が多かった。</p> <p><b>結論：</b> 生物学的特性が飲酒行動に与える影響は、分化的接触および分化強化による作用を受けた。特に女性と多量飲酒に対して強く作用しており、女子学生と多量飲酒に焦点を当てた社会的学習理論による介入の重要性が示唆された。</p>		